

MEDIA RELEASE • COMMUNIQUE AUX MEDIA • MEDIENMITTEILUNG

1998年7月17日

**第3回 ノバルティス メノポーズ・アワード
受賞者決定**

ノバルティス メノポーズ・アワードの第3回受賞者が決定されましたので、下記の通りお知らせいたします。この賞は、更年期の女性に関する医学、看護学、保健学などの発展・進歩に寄与する優れた業績を顕彰することを目的に、1995年に創設されたものです。

医学部門と看護学・保健学部門の2つの部門から構成され、毎年3名の受賞者が選出されます。第3回の募集は、昨年10月から今年3月まで行い、医学15件、看護学・保健学9件の合計24件の応募がありました。応募された業績について、1998年5月22日に開催されました選考委員会において、慎重な選考を行った結果、3名の先生方が選出され、顧問の承認を得た後、受賞者として決定されました。

記

●受賞者：

<医学部門>

- ・群馬大学医学部 産科婦人科 助教授 水沼 英樹 先生
- ・九州大学医学部 婦人科学産科学教室 助手 緒方 りか 先生

<看護学・保健学部門>

- ・東京医科歯科大学 難治疾患研究所 横山 徹爾 先生
- 社会医学研究部門（疫学）助手

●贈呈式及び受賞記念講演：

1998年7月18日（土） 於：HRT研究会 [東京ノバルティスファーマ（株）主催]

●顕彰内容： 表彰状、記念楯、副賞（賞金100万円）を贈呈

●選考委員： 別紙参照

メノポーズ： 女性の閉経のこと

HRT： Hormone Replacement Treatmentの略（ホルモン補充療法）で、女性の更年期ホルモンが減少して起こる様々な症状に対して、エストロゲンとプロゲステロゲンの女性ホルモンを投与する治療法

< 医学部門 受賞者 >

水沼 英樹 先生 業績要旨

研究テーマ： 閉経後骨量減少の自然史に関する研究とその対策

骨粗鬆症は、骨量が少なくなり骨折を起こしやすくなった状態と定義される。骨粗鬆症の早期発見、早期予防法を確立する目的で、一般ボランティア婦人を対象に閉経前後の骨密度の変化を調査した。その結果、1) 骨粗鬆症の早期発見や予防は閉経直後より開始すべきこと、2) 閉経直後は正常であっても10年以降には骨粗鬆症となる婦人も存在するので、これらの女性の10年後の骨量を考慮した対策を講ずること、3) 閉経直後の骨量減少と閉経10年以降の骨量減少は病因が異なる可能性があり、治療法も病因に基づく方法をとるべきなど、骨粗鬆症予防のための基本的戦略を確立した。一方、エストロゲンの受容体遺伝子多型が最大骨密度の獲得と関連性があることについても知見を得た。また、本邦女性の閉経後骨量減少の予防に対し、エストロゲンを第1選択薬とすべきことを実証した。エストロゲンを用いたホルモン補充療法(HRT)をできるだけ長期に行うために、副作用を軽減させるHRTとして従来用いられてきたエストロゲン量の半量を用いたHRT法を考案し、本邦女性ではこの方法が有効であることを明らかにした。

< 医学部門 受賞者 >

緒方 りか 先生 業績要旨

研究テーマ： 卵巣性ステロイドの二つの作用機序からみた血管機能制御の研究

閉経前の女性の心血管系は、女性ホルモンによって守られており、男性より心臓や血管の疾患の罹患率は低い。しかし閉経後はその危険が増大し、老年期にはほぼ同等となる。したがってこの女性ホルモンの血管保護作用のメカニズムを知ることが重要である。女性ホルモンのようなステロイドは、細胞内に入り核に働きかけて作用する（Genomic action）と考えられているが、かなりはやい時間的経過で起こる臨床的現象や実験的事実もあり、急性作用（Non-genomic action）も存在する。

今回の研究で、主要な女性ホルモンであるエストラジオールが、血管平滑筋に作用して血管を拡張させる血管作動性物質であり、その作用機序は血管平滑筋の膜に存在するカルシウムチャンネルをPTX感受性G蛋白を介して抑制することであることを解明した。またGenomic actionについても従来言われている脂質に対する効果だけでなく、血管平滑筋の血管作動性物質に対する反応性を変化させるというメカニズムを有することを報告し、この二つの作用機序を介して血管を保護していることを示した。

<看護学・保健部門 受賞者>

横山 徹爾 先生 業績要旨

研究テーマ：更年期における循環器疾患のリスク・ファクター

日本では、女性の閉経と循環器疾患リスク・ファクターである高血圧、高コレステロール血症、肥満等との関連を明らかにした疫学的研究は少ない。我々は、地域住民を対象として長期間に渡って継続的に実施した循環器疾患の疫学的研究の結果から、同一個人における閉経前後（最大±10年間）で、血圧値、血清総コレステロール値、肥満度がどの程度変化するのかを検討した。その結果、閉経により女性は血清総コレステロール値が15～30mg/dl上昇することが確認された。血圧値上昇は認められなかった。また、地域を基盤とした介入研究を行い、ライフスタイルの変容によって血圧値と血清総コレステロール値がどの程度低下するかを検討した。閉経期の女性において、約4g/日の減塩を2ヵ月間行うことにより、収縮期血圧が1mmHg、拡張期血圧が5mmHg程度低下したが、半年間の食事指導による血清総コレステロール値の低下はわずかであり、運動指導と併用することが望ましいと考えられた。

ノバルティス メノポーズ・アワード

選考委員会

選考委員長：

麻生 武志 先生（東京医科歯科大学 医学部 産婦人科 教授）

選考委員：

中野 仁雄 先生（九州大学 医学部 婦人科産科 教授）

武谷 雄二 先生（東京大学 医学部 産婦人科 教授）

前原 澄子 先生（三重県立看護大学 学長）

伊達 ちぐさ 先生（大阪市立大学 医学部 公衆衛生学 助教授）

大澤 昭夫 （ノバルティス ファーマ株式会社取締役副社長）

顧問

小林 拓郎 先生 （九州看護福祉大学 学長）

吉田 信弘 先生 （読売新聞 編集局次長 兼 科学部部長）

見城 美枝子 先生 （青森大学 教授・エッセイスト）

- 第1回受賞者 -

(1996年)

< 基礎研究部門 >

森田 育男 先生 (東京医科歯科大学歯学系大学院 細胞機能制御学講座 助教授)
テーマ： 更年期における骨塩含量減少機序の解明

< 臨床部門 >

細井 孝之 先生 (東京大学医学部老年病学教室 講師)
テーマ： 閉経後の骨代謝における多様性とエストロゲン受容体遺伝子多型性との関連

< 看護・保健部門 >

アルベリー・信子さん (日本アマラント協会 創設者 会長)
テーマ： 中・高年期の女性が、自分のからだについての正しい知識を得ることにより、閉経期を心身共に健やかに乗り越え、閉経後の人生のQOLを実現するための啓発活動の展開。

- 第2回受賞者 -

(1997年)

< 基礎研究・臨床部門 >

尾林 聡 先生 (東京医科歯科大学医学部産婦人科 助手)
テーマ： ヒト血管における女性ホルモン制御および動脈効果発症に関する研究

宮浦 千里 先生 (昭和大学歯学部生化学 講師)
テーマ： エストロゲンの骨髄造血調節作用に着目した閉経後骨粗鬆症の発症機構の解明

< 看護・保健部門 >

吉沢 豊予子 先生 (長野県看護大学 助教授)
テーマ： 中高年女性のヘルスプロモーションの特徴に関する研究

なお、第2回は基礎研究と臨床を併わせて基礎研究・臨床部門とし、第3回より医学部門に改組。

< 参考資料 >

- メノポーズ： 閉経の意味。
卵巣の機能が衰えて止まること。すなわち月経の完全な終結を意味する。大多数の女性が48～52歳の間に経験する。
- HRT： Hormone Replacement Therapy の略。
ホルモン補充療法の意味。閉経や手術で卵巣の機能を失い欠乏したエストロゲン（卵胞ホルモン）をプロゲステロン（黄体ホルモン）とともに外部から補って更年期の症状を改善する療法。
- HRT研究会： ノバルティス ファーマが主催するHRTについての研究会。
HRTの理解と普及について広く検討することを目的に設立され、HRTの最新の研究内容が発表される。
- イストラダ[®]-ΔTTS： 更年期障害の治療薬として用いられるエストロゲンの経皮吸収型治療薬。
生体内で最も生理活性の強い天然型17 β -エストラジオールを含有する貼付剤で、皮膚から吸収されるため、肝臓での初回通過効果を受けず、必要最少量の投与で血中濃度を維持する。のぼせ、ほてり等の血管運動神経症状、泌尿生殖器の萎縮症状、エストロゲン欠乏による睡眠障害等に高い有用性をもつ。
1985年スイスで初めて発売され、現在70ヶ国以上で販売。
日本では1995年9月に発売。
- TTS： Transdermal Therapeutic System の略
日本語では経皮吸収治療システムと訳される。
皮膚を介して、長時間にわたりコントロールされた速度で薬物を体内に送り込み、薬物の理想的な投与法を可能にしたシステム。
適用部位が皮膚表面であることから、必要に応じて（副作用発現時など）薬物の投与を直ちに中断できるメリットがあり、また肝臓や消化器系への影響を少なくすることが可能である。
イストラダ[®]-ΔTTSは、「支持体」「薬物貯蔵層」「放出制御膜」「粘着剤」「ライナー」の5層構造を有する。
イストラダ[®]-ΔTTSの他に狭心症治療薬『ニコダ[®]-ΔTTS』、禁煙補助薬『ニコチンTTS』（申請中）などがある。（いずれもノバルティス ファーマが発売または開発）

< 参考資料 > ノバルティスの医学賞、研究助成

ノバルティス・リウマチ賞（旧 日本チバガイギー・リウマチ賞）

[主催：財団法人 日本リウマチ財団 協賛：ノバルティス ファーマ株式会社]

1990年設立

目的：リウマチ学の発展、進歩に大きく寄与する可能性を有する独創的研究を顕彰し、その継続を援助することを目的とし、財団法人 日本リウマチ財団は「ノバルティス・リウマチ賞」を設ける。

顕彰内容：毎年300万円

ノバルティス地域医療賞（旧 Ciba地域医療賞）

[主催：ノバルティス地域医療賞委員会 後援：社団法人 日本医師会]

1994年設立

目的：全国各地で住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績を挙げ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会会員の方を表彰する。

顕彰内容：日本医師会会長及び各都道府県医師会長から推薦された応募者をノバルティス地域医療賞委員会にて受賞者を選考し、毎年1回表彰する。受賞者には表彰状と記念の楯並びに副賞として100万円を贈呈。

財団法人 ノバルティス科学振興財団（旧 チバ・ガイギー科学振興財団）

[出捐者：ノバルティス社（スイス・バーゼル）]

1987年設立

目的：自然科学の創造的研究およびそれに携わる若い研究者の国際的交流に対する助成を通じて、日本の学術の発展と福祉の向上に寄与すること。

助成分野：1. 医薬、農薬等の開発に寄与する生命科学領域
2. 有機新素材の発展に貢献する化学・物理学領域の基礎研究

ノバルティス老化および老年医学研究基金（旧 サンド老化および老年医学研究基金）

[主催：日本老年医学会 協賛：ノバルティス ファーマ株式会社]

1986年設立

目的：老化にともなう生化学的、薬学的、免疫学的、医学的分野を支援、また、これまでに研究されていない分野における疫学的分野や行動研究を支援し、老年医学および老年病学の革新的な研究を世界的に促進させること。旧サンド社の創立100周年を記念して設立。

助成内容：毎年5～6名に各150万円

この件に関するお問い合わせ先：

ノバルティス ファーマ株式会社

広報グループ・喜多 英人

TEL: 03-3797-8027

FAX: 03-3797-4367